

## はばたくなら ②④

## 保育の振り返りと 一人一人に寄り添った援助を考える ～写真を活用して～

### 取組について

■近年はインターネットが発達し、簡単に様々な人とオンライン等で繋がることができるようになってきている一方で、実生活の中では人と人とのつながりが少なくなってきている。人との関わりが制限されるコロナ禍で育ってきた本園の園児たちは、集団生活に対する戸惑いや、自分の思いを素直に伝えることへの抵抗を感じやすい傾向にある。3歳児においても初めて家族以外の人と関わり、集団生活に緊張を感じやすい幼児も多い。

■上記のような実態を踏まえ、初めての集団生活を送る場である幼稚園において、人と関わる楽しさや一緒に過ごす楽しさ、繋がる中で生まれるぬくもり、自分を受け入れてもらえる喜びを経験することが重要であると考えた。幼児の思いに寄り添うという保育者の役割に重点をおき、研修を進めてきた。

■その研修方法の一つとして、写真を用いた保育記録を活用し、SOAPの視点で保育を分析したり、多面的な視点で保育を振り返ったりしながら、幼児一人一人の心の動きに寄り添った保育者の援助、発達や学びにつながる保育の工夫について話し合ってきた。

※SOAPは保育の現場において、S…幼児の姿、O…読み取り、A…評価・願い、P…環境構成とし、幼児の姿から読み取ったことをもとに、どのような願いをもって、そのためにどのような環境を構成していくかについて考えること。

### この取組を通して…

○写真を活用することで、写真を選んだり、選んだ理由を他の保育者に伝えることで保育を振り返り、状況を整理することができた。また、話をするときその場面を見ていない保育者にも幼児の表情や遊びの様子が伝わり、新たな気づきが生まれた。保育者間で共通理解をすることの大切さを改めて感じることもできた。

○SOAPを活用することで、漠然と話し合うのではなく視点を定め、一つの場面について様々な意見を出し幼児理解を深めることができ、根拠をもち明日への保育へと繋げていくことができた。

○写真を見て話し合う中で、幼児が何に興味をもち、楽しんでいるのが等をしつくりと見取ることができ、一人一人に寄り添い、個々に合った援助をしていくことに繋がっていった。

○3歳児はまずは保育者との信頼関係が大切で、家族以外の人と関わる中で安心感を感じられるようにすることが、人と関わる基本になっていった。幼児が安心して過ごせる環境を作り、つながる中で生まれるぬくもりを感じられるようにすることが一人一人に寄り添う援助であると考えた。

# 実践事例① ラーメン屋さんしたい！

## 6月



**遊びのきっかけ：**年長児のラーメン屋さんに行く。  
たくさんラーメンを注文したことや、お世話をしてもらったことが嬉しかったようで「ちゅうりっぷ組でもラーメン屋さんしたい」と保育室に戻ってくる。

6月20日  
ねらい・安心して幼稚園生活を送り、好きな遊びを楽しむ。

S 幼児の姿

O 読み取り

A 評価・願い

P 環境

自分たちもラーメン屋さんをやりたいと毛糸を麺にし、おわんに入れて並べたり、鍋に入れてゆでたりしてお店屋さんが始まる。トングや鍋、鍋つかみなどを使うまくラーメンを移し替え「いらっしゃいませ、ラーメンいりますか?」「何味にしますか?」と店員になる幼児や、「ラーメンください」「ちょっと味見してみるね」と客になって食べたり、つまみ食いをする幼児もいる。

ぎゅぎゅっとした空間が心地いいのかな?

それぞれに遊んでいるのが年少らしいね。

同じ遊びをしている友達がいるって楽しいね。

お店らしい物の配置をしていてワクワクする。一緒にラーメン屋さんをしたくなったよ。

材料や道具がいろいろあるね。



近くで一緒に遊んでいると安心するのかな。

机を使ってお店みたいになってるね。

年長さんのラーメン屋さん楽しかったんだね。

自分のなりたい役割(客・店員)になって遊びを楽しんでいるね。



いろんな皿に麺を入れることを楽しんでたよ。

いつも泣いているAちゃんもみんなの中で楽しそうに遊んでいるね。

- ・年長児からの刺激で自分たちもやりたいと思って真似をすることを楽しんでいる。
- ・フェルトや粘土等、様々な素材に触れ、遊びを楽しんでいる。
- ・隣にいる友達の存在を少しずつ感じ始めている。

- ・好きな遊びを十分に楽しんでほしい。また、遊びを楽しむことで安心できる居場所を園で見つけてほしい。
- ・同じ空間で過ごす友達の存在を感じてほしい。
- ・やってみたい→できた→楽しいという経験を積み重ねてほしい。

- ・幼児が扱いやすく、遊びのイメージが持ちやすい素材(入れ物・カトラリー・麺)を選んだり、店にできる場(机・ごき)等がやりたいことを十分にできる材料(種類・量)や環境を用意する。
- ・それぞれに見つけた遊びが十分に楽しめる時間を確保する。
- ・保育者も一緒に客や店員になり、幼児の楽しんでいる思いを受けとめる。

その後、K児・T児と一緒に保育者も客になって遊んでいると、Y児は店員として張り切り「いらっしゃいませ!」と大きな声で呼びかけたり、一生懸命ラーメンを作り、提供する姿があった。T児やK児が喜ぶ姿を見て、Y児も満足そうに笑っていた。

### 【実践を通して感じたこと】

○幼児の思いに寄り添うとは、保育者が幼児のやりたい気持ちを受けとめ、幼児の気持ちに添った環境を用意することである。また、一人一人が楽しんでいることを見取り、楽しんでいることを認めていくことが必要である。

○年長組での遊びの様子や幼児の思いを汲みとり、遊び出せる環境(素材の麺や机など)をタイミングよく用意したことで、ラーメン屋を年少の保育室で楽しむことができた。

○写真を見て研修をしたことでその遊びを見ていない保育者にも遊びの様子や幼児の表情などが伝わりやすく、それぞれの考えを出し合い活発に話し合うことに繋がった。

# 実践事例②電車ごっこをしよう

11月

S幼児の姿

O読み取り

A評価・願い

P環境

ねらい・友達や保育者と一緒に好きな遊びを楽しむ。

〈B児〉電車が好きで、1学期はおもちゃの電車で遊んだり、積み木を構成したりするような一人で黙々と遊ぶ遊びを好んでいた。

〈C児〉制作が好きで、絵を描いたり、箱を構成したりして遊ぶことが多い。作ったことで満足し、作っては、家庭に持ち帰っていた。

秋の遠足で京都鉄道博物館に行く。その際、切符が流れているところを見ることのできる改札を通った。幼児たちは改札に興味津々だった。

翌日、さっそく電車ごっこをする中で改札を作ろうと考えたC児。保育者と一緒に材料室に箱を探しに行き、ティッシュの箱を組み合わせて作る。倒れないように箱を組み合わせ、自分が使いやすい高さに調節し、横には鉄道博物館で見たような動物も描いて貼る。完成したのを見て、別の場で切符を作っていたD児やB児が「どうやってするの?」とやってくる。C「これ改札」C「ここから切符入れるんだよ」と友達に使い方を伝え、同じように切符を通す。何度も改札に切符を通し、切符が出てくると自然に順番を代り合いながら遊んでいた。

B児はC児が改札を作っているのを見て、切符を作っていたよ。

遠足で一人一人切符を通す経験ができたのがよかったね。

B児の好きなところに遠足で行ったから生き生きしているね。

自分の好きな電車を通して、友達に興味をもち遊ぶことを楽しんでいる。

共通経験や本児の電車が好きなことがきっかけとなり、同じ場を共有しながら遊んでいる。友達と過ごす面白さを積み重ねてほしい。

- ・保育者も一緒に楽しんで遊び、その中で友達と過ごす面白さを伝え、一緒に過ごすことの心地よさを感じられるようにする。
- ・B児の好きなことを存分にできるように見守ったり、一緒に遊んだりする。
- ・B児の考えたことを遊びに取り入れながら、友達と過ごすことができるようにする。

【その後】好きな電車を作って乗ったり、ジオラマを作ったりして友達と関わって遊ぶ姿が見られた。

## 【実践を通して感じたこと】

○B児とC児に視点を絞り、保育者間で写真を見ながら話し合ったことで個人に対する必要な援助を具体的に出し合うことができた。幼児理解が深まり、保育者が一人一人に寄り添った援助や環境構成をすることで、幼児の姿が少しずつ変化していった。

○保育者が幼児の姿を丁寧に見取り、理解して関わることで幼児が安心して生活を送るようになった。また、安心して生活をする中で友達の存在にも目を向け、一緒に遊ぶことを喜ぶ姿に繋がっていったと考える。



何度もするって楽しかったからやね。

作った物に友達が来てくれると嬉しいよね。

作って終わりじゃなくて遊べるのいいね。

自分の考えた発想にみんなが共感し、遊んでくれるので嬉しいと思っている。B児たちの存在を受け入れ、自分の作った物と一緒に遊ぶことを楽しんでいる。

友達に提案したことを受け入れてもらった経験から、今度は友達の考えや意見を受け入れて遊んだり、友達と過ごす面白さを知ったりしてほしい。

- ・友達と一緒に過ごすことが楽しいように保育者も一緒に遊びを楽しみ、思いの橋渡しをしていく。
- ・友達や保育者と関われるような環境を作る。
- ・作った物を置いておけるようにし、継続して遊びが続けられるようにする。

【その後】同じクラスの幼児にC児の作ったものを紹介すると喜んで切符を通して遊んでくれたことから、C児は改札を大切に箱に直し、別の日も遊んでいた。